

こどもの幸せのためにできること

～特性のあるこどもに対する支援～

第2回 基礎編

聖隷クリストファー大学
リハビリテーション学部
作業療法学科

NPO法人むく 代表

浜松市発達支援巡回指導員

前回の振り返り

1. 障害児・者の捉え方の変遷
障害から個性、特性へ
2. 支援の考え方の変遷
原因思考から結果／未来思考へ
3. 支援の時に考えること
トラブルは支援のチャンス
困っているのは子どもたち
仮説に基づき対応を変える

今日の内容

子どもたちの特性を感覚統合の発達からみる

実際の相談内容

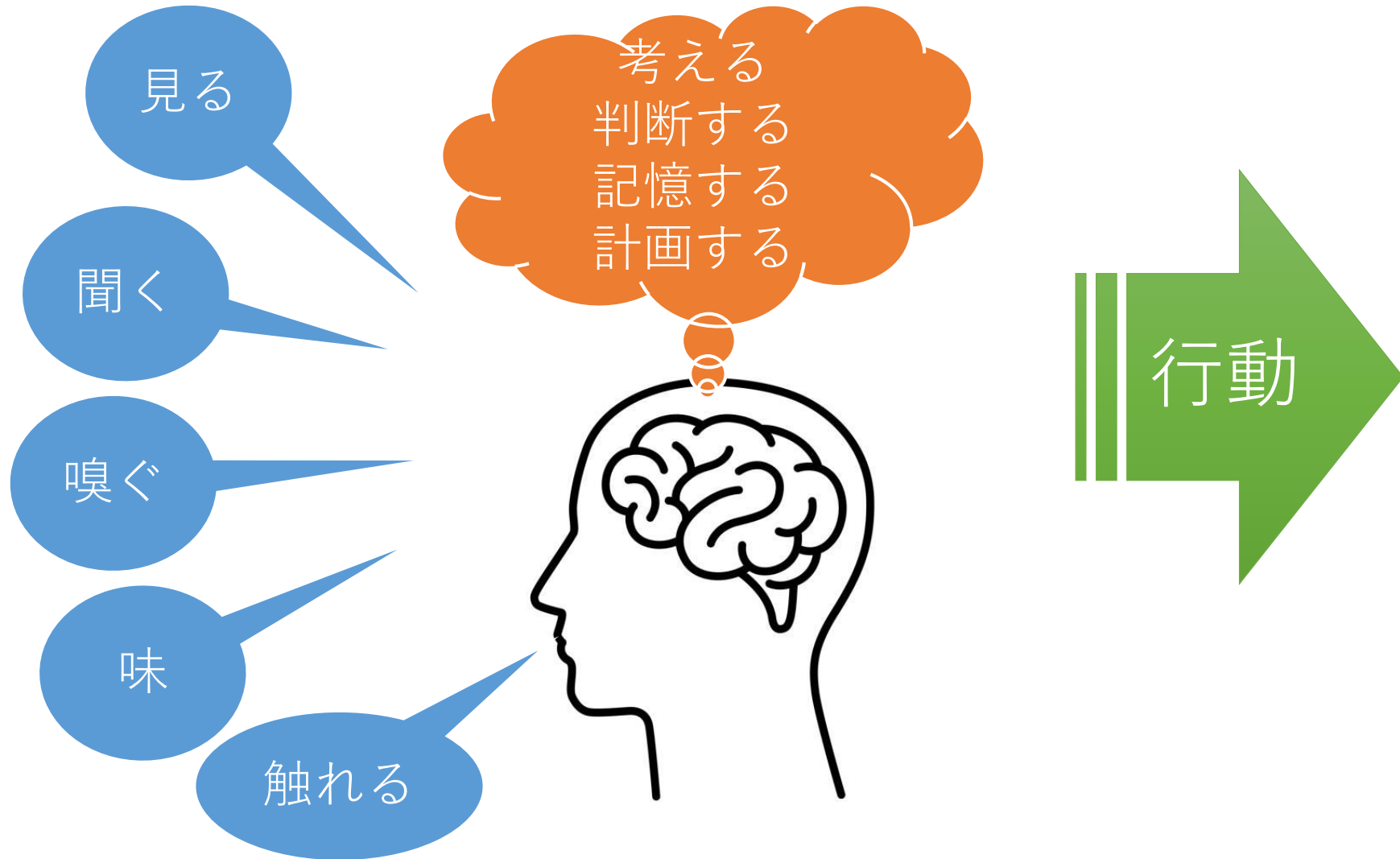
- ・学習意欲がない
- ・書くことへの苦手意識が強い
- ・手先が不器用（コンパス、定規、箸、家庭科）
- ・思うようにならないとパニック、泣く、離席
- ・教師の指示の理解が難しい
- ・集団のルールが守れない
- ・身支度を自分で進められない

通常級担任の先生から

- ・学習用具を自分で準備できない
- ・授業に参加できない（他のことをしている）
- ・落ち着きがない
- ・床によく寝転ぶ、机やロッカーの上で寝る
- ・授業中の離席
- ・力加減
- ・X脚が心配

感覚（感じ方）は行動に影響を与える

行動



感覚によって脳に、環境の情報が取り込まれ、適切な行動をしている

感覚情報が不安定（独特な感じ方）

聴覚過敏



- ・クラスに入れない
- ・特定の音が嫌
（掃除など）
- ・音楽が嫌
- ・怒鳴り声が嫌

音が不快 → 情緒不安定 → 怒る、逃げる

感覚情報が不安定（独特な感じ方）

偏食



嫌いなモノ（味、繊維）

→ 「これ食べたら、好きなモノ」

→ 苦痛

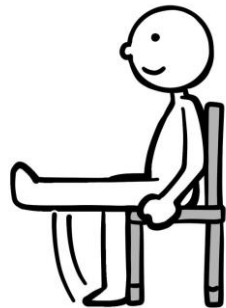
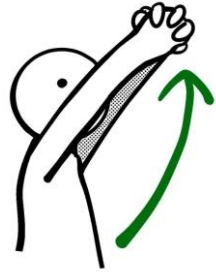
情緒不安定

生活の中で感覚は大事

片麻痺の方



リハビリ



手足を動かせるようになる

しかし

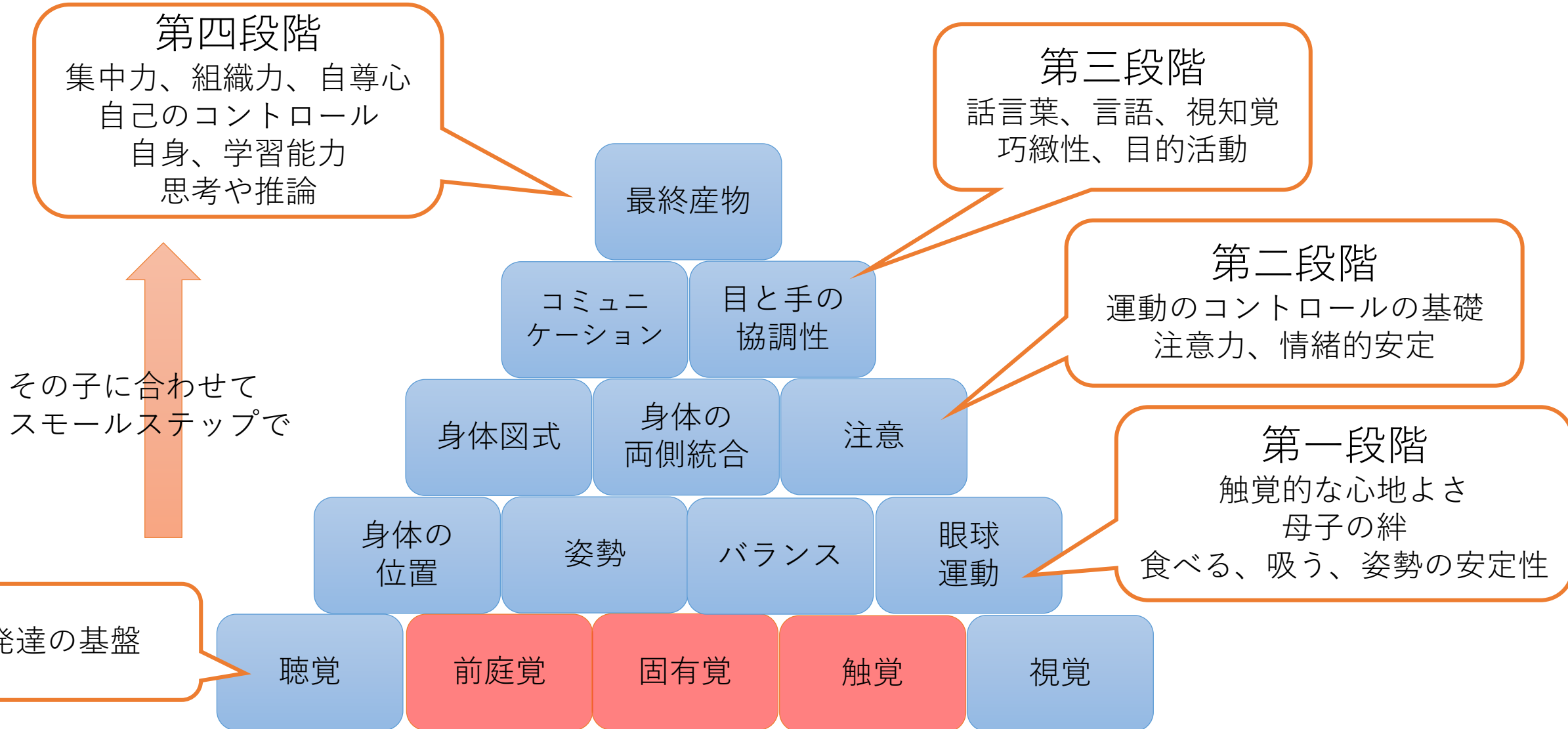
着替えられない、お箸が使えない



感覚がマヒしていると、
生活で使えない手足

こどもの発達にも感覚は大事

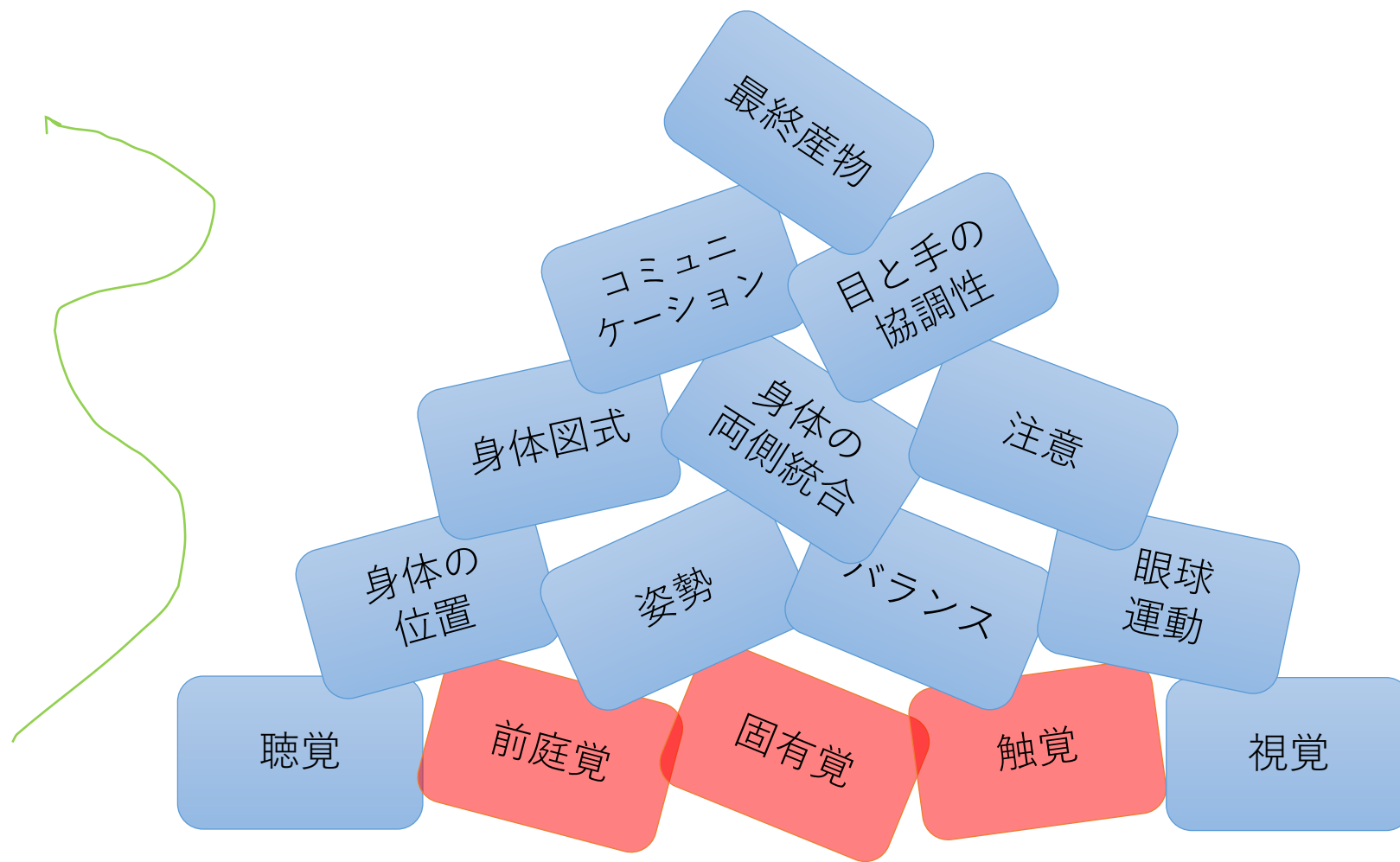
by Ayres



発達の基盤が未熟だと

by Ayres

歪んだ発達過程



感覚運動の発達が大事

感覚の発達が未熟

運動

走る
跳び箱
縄跳び
投げる
水泳 など

行動

多動
落ち着きがない
暴力
おとなしい
不注意 など

身辺動作

着替え
排便
歯磨き
お箸
洗体 など

学習

読み書き
文房具の使用
不器用
音楽
体育 など

感覚

環境を知る感覚

視覚

障害物

聴覚

風や雨、車の音

嗅覚

雨の匂い

味覚



感覚統合

触覚で風と雨を感じ、
感じた方に傘を傾ける

自分の体を知る感覚

前庭覚

バランス

固有受容覚

傘の向きを変える

触覚

雨、風

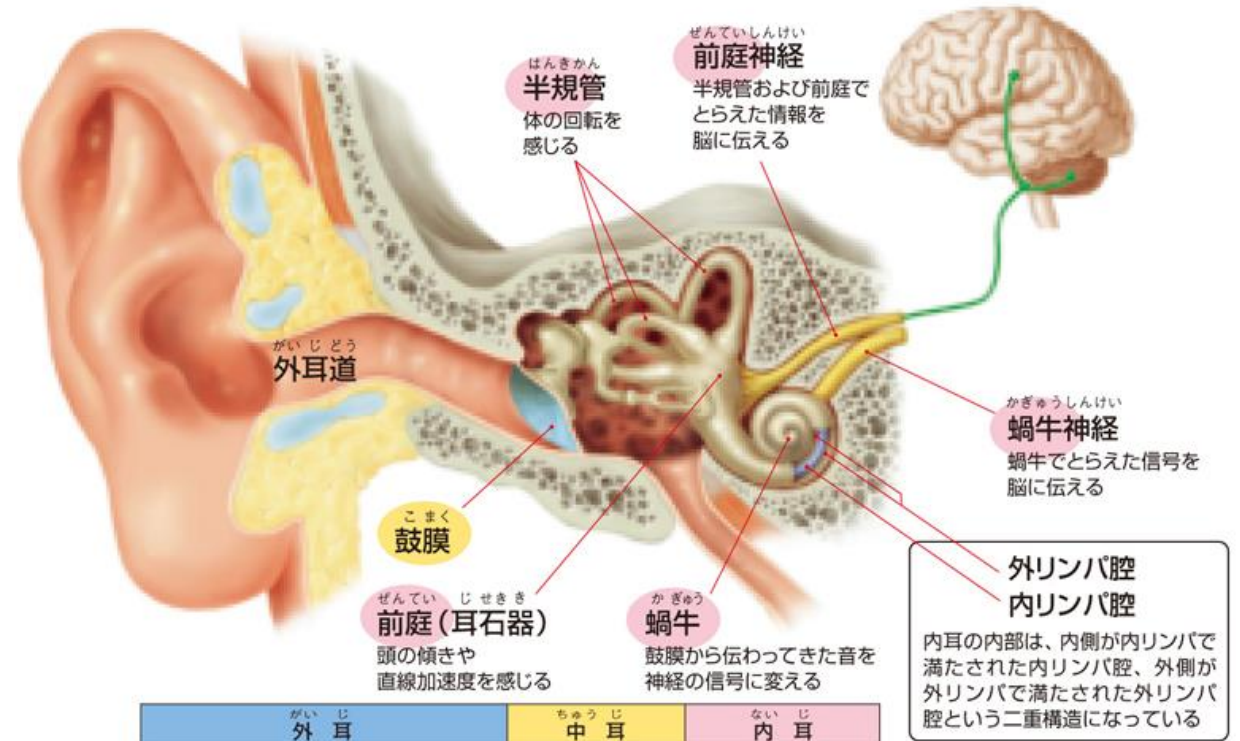
前庭覚

- ・ バランス
- ・ 姿勢の調節
- ・ 眼球運動
- ・ 覚醒
- ・ 身体の機能の把握

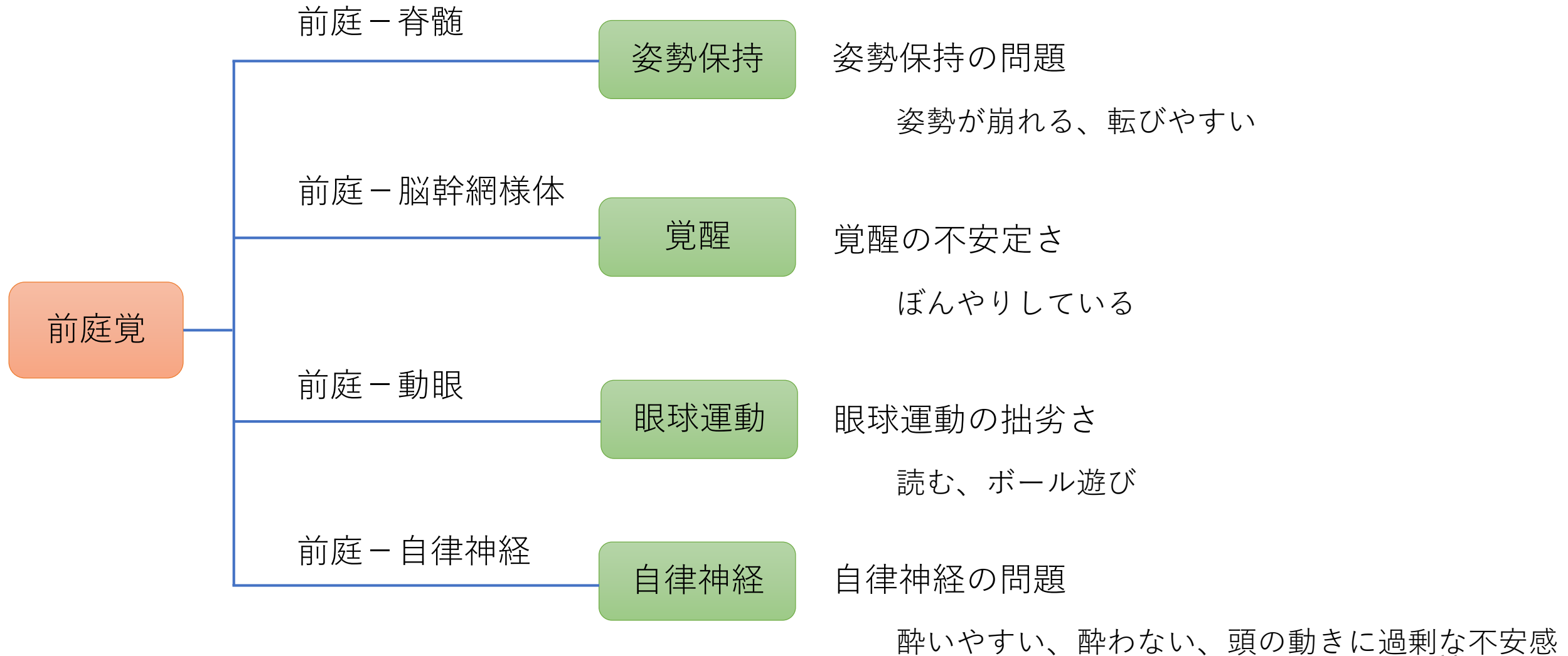


- ・ 揺れ
- ・ スピード
- ・ 傾き
- ・ 重力

● 耳(内耳)の構造と働き

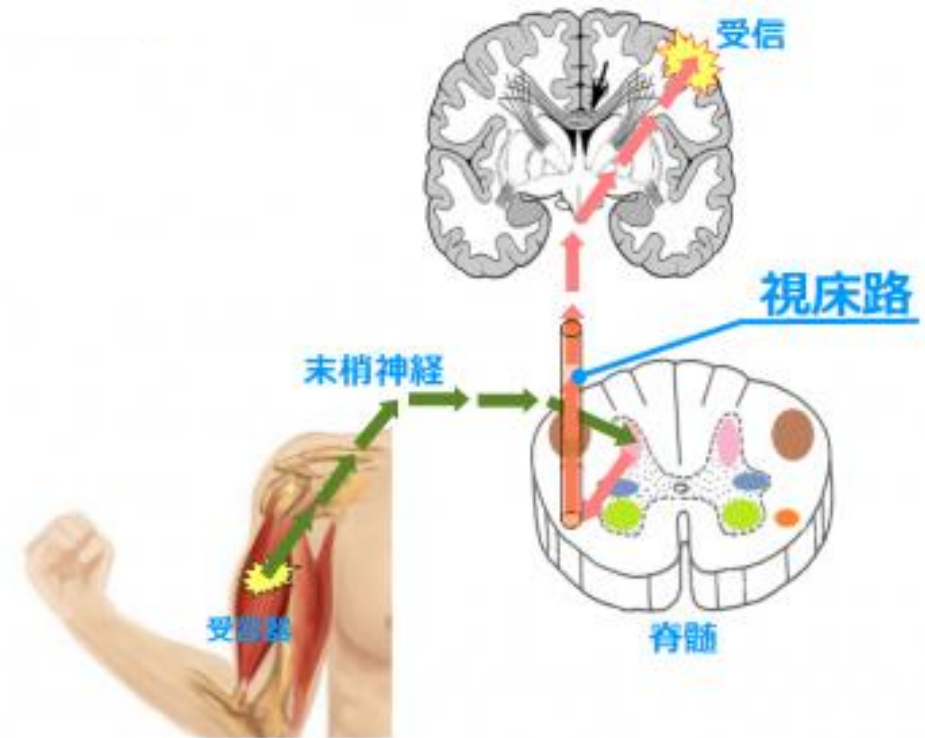


前庭覚のトラブル



固有受容覚

- 筋や腱から関節の動きの情報を受ける
- 運動の調整（速さや力加減）
- 身体図式（関節の動きや体の位置）の把握
- 情緒の安定（気持ちを鎮静化させる）



固有受容覚のトラブル

- ・ 粗雑なかかわり
- ・ 力加減がわからない
- ・ 身体・手の使い方が不器用
- ・ モノの扱いが雑
- ・ 書字が苦手



触覚のトラブル

触覚防衛反応

(防衛的機能 > 識別的機能)

- ・ 散髪、歯磨き、爪切りなどが嫌
- ・ 衣服へのこだわり（綿100%でない嫌、タグや嫌など
- ・ 砂、泥、のり、スライムなどが嫌
- ・ 突然触られるのが嫌
- ・ パーソナルスペースが広い

情緒の不安定さ

心地よいはずの触覚刺激も不快



よく相談を受ける内容について

1) すぐにイライラする

頭の中の余白（余裕）が少ない

園や学校生活は様々な感覚情報で豪雨状態 ⇒ 頭の中は大洪水

人ってよくわからない

人はファジー：周りの子どもも、その時の気分によって行動が異なる

教室は密なコミュニケーションの場（人とかかわる量が増える）



過敏さがある、人との関りなどで頭の中は忙しい

コミュニケーションをとる余裕がない

教室

掲示物、人
声、音 など

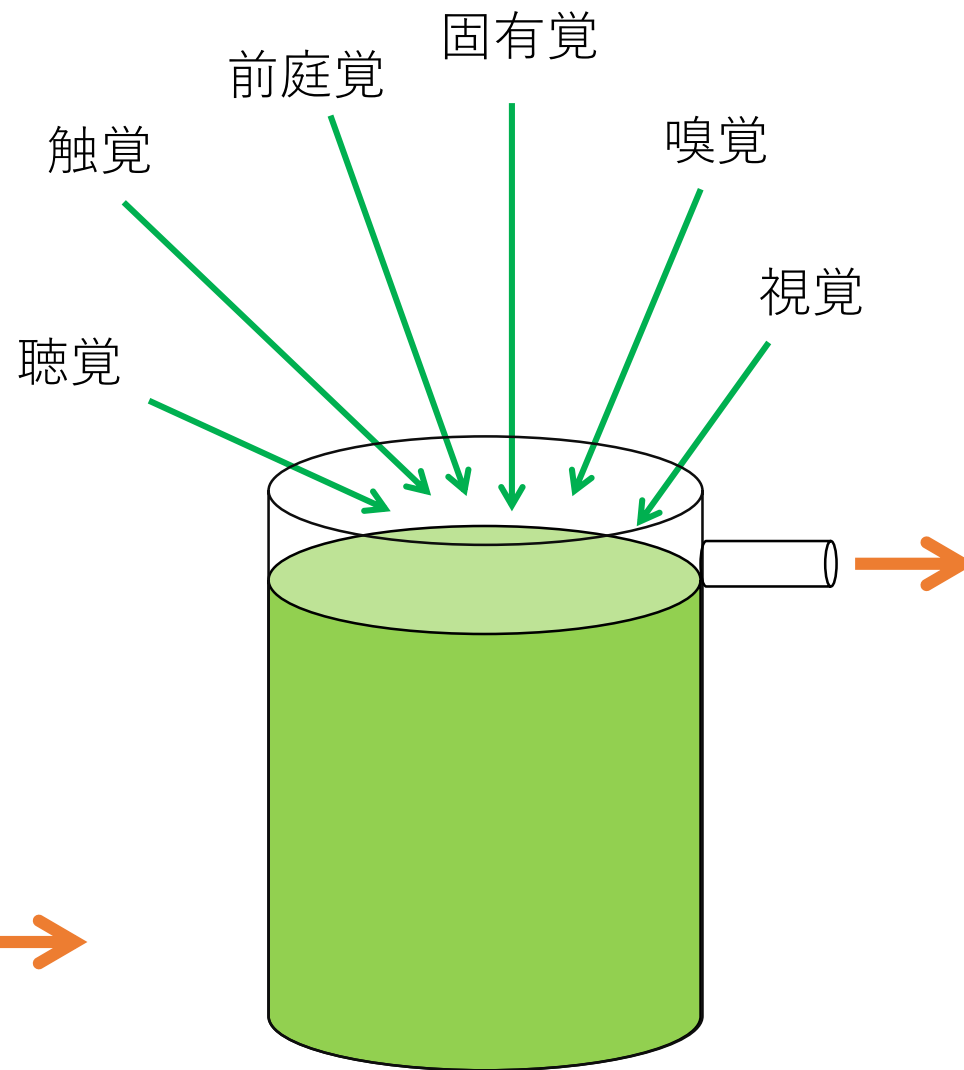
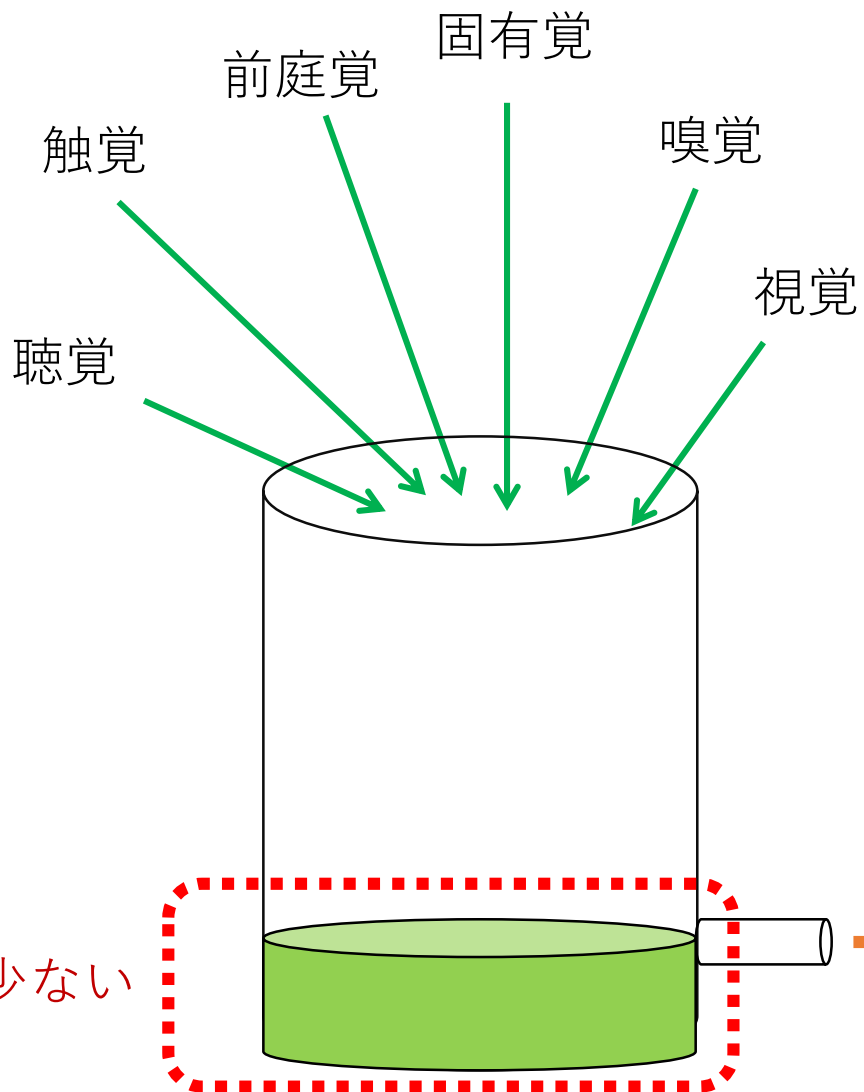
いろいろな刺激が入ってくる



閾値

低閾値（過敏）

高閾値（鈍磨）



対応

頭の中の余白（余裕）を保証

人の気持ち、表情、行動を取り扱う場合、頭の中の余白（余裕）が必要

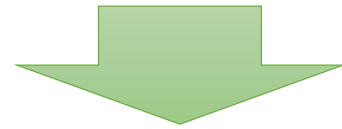
- ・ 低刺激モード
- ・ 居場所や席などの固定（自分のスペースの確保）
- ・ 友達と関わる時に、いくつかのパターンがあることを伝える（年長、小学生）
- ・ 視覚的、空間的な明確化

2) 手が出てしまう子

非常に多い相談

原因は様々だが、

なぜ、叩く、蹴る、噛む、投げるなどをするのか？

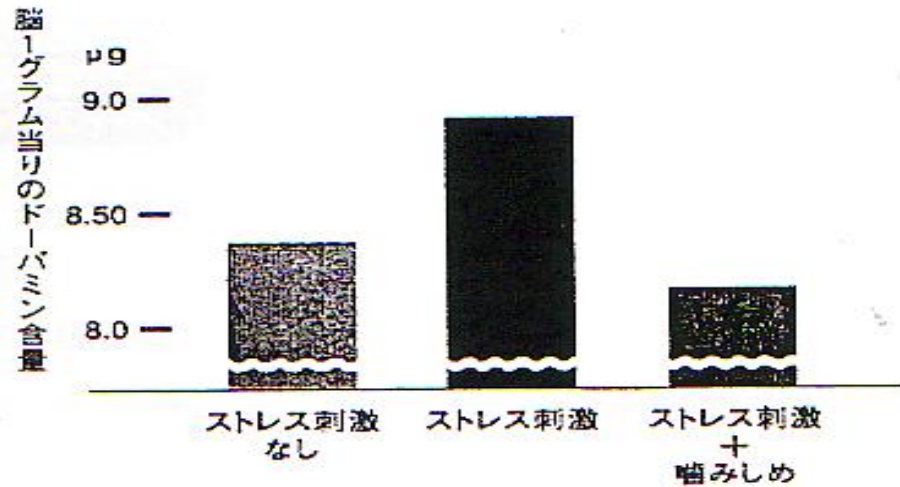


みんなする、大人でもする

すっきりするから、イライラが治まるから

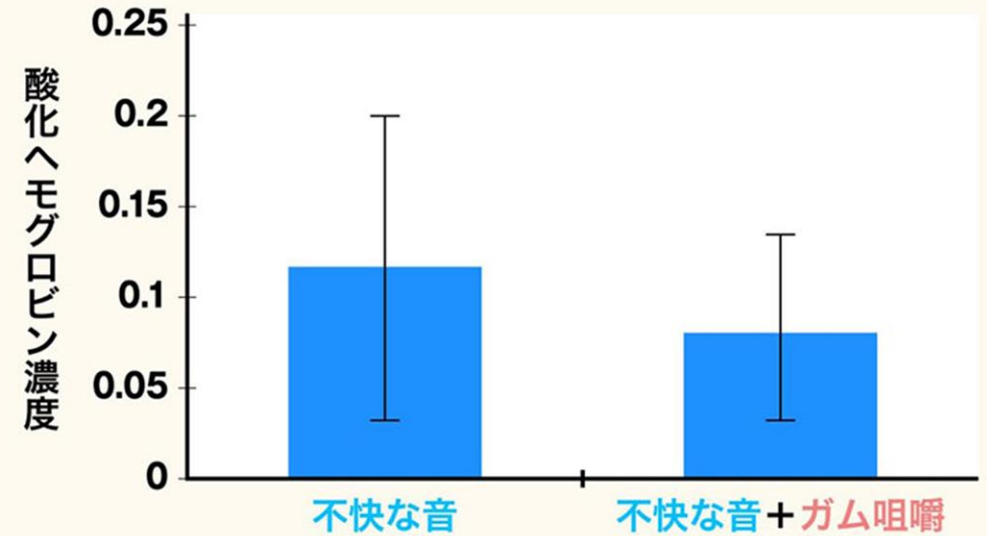
固有受容覚による自己調整

ストレスによる脳内ドーパミンの増加と噛みしめ



ドーパミン：強いストレスにより増える

光トポグラフィによる右前頭前野の状態



右側の前頭前野は、ガム咀嚼によって少なからず活性化の傾向を示した

対応

運動の保証

普段から

筋肉痛になるような活動



力加減や運動のコントロール（調整）を要する活動

イライラしている時

止めようとしな

謝らせることに重点をおかない

人を叩いてしまったことを
通して何を学んでほしいのか
叩いてはいけないこと？
謝ること？

3) 姿勢が悪い

感覚が鈍磨傾向

座っている実感が少ない



バランスを
感じにくい

臀部で感じる
圧を感じにくい

良い姿勢で集中する
ことは難しい

対応

目的と手段

感覚が鈍磨傾向

姿勢を意識しないと良い姿勢がとれない、そのため学習に集中できない

学習か？ 姿勢か？

目的：学習

手段：座る

姿勢を補う
環境設定も大事

集中していれば、姿勢はOK

4) 集団に入れない

感覚過敏傾向

- ・ ザワザワした所が苦手
- ・ 特定のモノが触れない
- ・ パーソナルスペースが広い
- ・ 激しい人見知り
- ・ 部屋の隅にいる
- ・ 大人しい
- ・ 場面緘黙

対応

- ・ 無理強いはしない
- ・ リラックスできる場
- ・ 受け入れられるものから
- ・ 認知的側面での配慮，知的な活動
- ・ 感覚環境の調整
- ・ できるだけ低い声での指示
- ・ 悪い例は言わない
- ・ 席の配慮
- ・ 逃げ場の設定
- ・ 圧迫刺激

5) 不器用

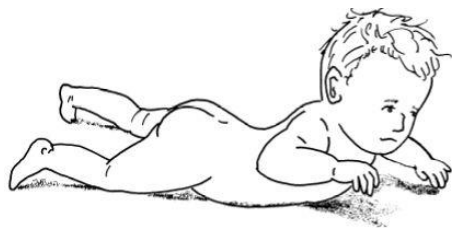


- ・固有受容覚と触覚
- ・身体図式
- ・姿勢の安定
- ・運動企画

対応

姿勢の安定

抗重力姿勢活動



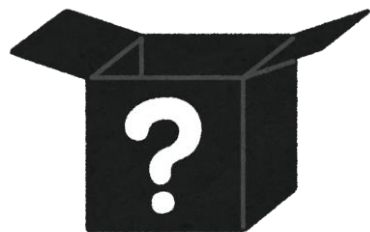
身体図式

触覚遊び、固有受容覚遊び



触覚と固有受容覚

ブラックボックス



リハーサル

運動の計画を
考えてから
GO

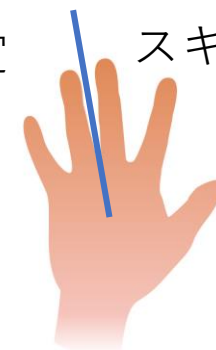


手指の3対2の法則

スキルサイドと安定

安定

スキルサイド



握力をつける

6) 強度行動障害

- ・ 他害（叩く、噛むなど）
- ・ 自傷行為
- ・ 投げる
- ・ 奇声



感覚過敏や知的な遅れで、
スキンシップの経験が乏しい

愛着形成

定型発達 2、3歳でクリアする課題

スキンシップ

愛着形成

安心、対人関係

対応

Sensory communication

ことばやカードでのやりとりではなく
感覚によるやりとり（触覚や固有受容覚）

スキンシップ



子どもたちは、ひとりひとり特性をもった行動をとります。

特性の背景に感覚の感じ方の違いが、様々な理由の中のひとつしてあることを理解していただければ嬉しいです。

ご清聴ありがとうございました。

次回

11月21日（火）

19：00～20：00

第3回

特性のあるこどもに対する支援「応用編」

～事例を通して支援を考える～